病原因子検査学演習Ⅰ(Graduate Seminar of Pathogenic Laboratory Ⅰ)

担 当 教 員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
井上 孝	1年次 前 期	選択	2	48	演習	あり	巻末掲載	可

授業概要 (内容と進め方) 及び 課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	病原因子検査学演習Ⅰでは、プロバイオティクス摂取による腸内細菌叢の保健効果についての研究である。市販されている特定保健用食品や栄養機能性食品に含まれるプレバイオティクスについて、その保健効果と生活習慣病に関する最新の知見・現況およびその評価方法について学修する。 課題に対するフィードバック方法／レポートに対して討論するほかコメントをつけて返却する。 実務家教員（井上）が実施する。
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー②「専門職業人として医療に対する幅広い知識と技能を駆使し、高度な臨床検査を実践できる。」及び④「臨床検査技師の役割を探求し、臨床検査学分野の高度な実践者、教育者及び研究者として社会に対して責任を果たし、貢献できる。」の達成に寄与している。
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	1.プロバイオティクスの定義について説明できる。 2.プロバイオティクスの保健効果について説明できる。 3.食品プレバイオティクスの有効性の基本的な評価方法について説明できる。
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	第1回～第24回事前学習：事前に計画されている単元について予習を行っておく／予め指定した論文を読み、その内容を概説できるようにしておくこと（各30分） 第1回～第24回事後学習：講義内容で不明な点は、講義終了直後もしくはオフィスアワーを利用して質問するなどして明確にするよう努める／教員が配布する資料で復習を行うこと。（各30分）
	※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位15回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位15回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

授業計画	第 1 回	生体の感染防御機構-腸内細菌の役割（講義）1	井上　孝
	第 2 回	生体の感染防御機構-腸内細菌の役割（講義）2	井上　孝
	第 3 回	プロバイオティクスと保健効果（講義）1	井上　孝
	第 4 回	プロバイオティクスと保健効果（講義）2	井上　孝
	第 5 回	プレバイオティクスと保健効果（講義）1	井上　孝
	第 6 回	プレバイオティクスと保健効果（講義）2	井上　孝
	第 7 回	特定保健用食品の認定基準の概要（講義）1	井上　孝
	第 8 回	特定保健用食品の認定基準の概要（講義）2	井上　孝
	第 9 回	特定保健用食品の認定の科学的根拠（論文）1（ゼミ）	井上　孝
	第 10 回	特定保健用食品の認定の科学的根拠（論文）2（ゼミ）	井上　孝
	第 11 回	特定保健用食品の認定の科学的根拠（論文）3（ゼミ）	井上　孝
	第 12 回	特定保健用食品の認定の科学的根拠（論文）4（ゼミ）	井上　孝
	第 13 回	特定保健用食品の認定の科学的根拠（論文）5（ゼミ）	井上　孝
	第 14 回	特定保健用食品の認定の科学的根拠（論文）6（ゼミ）	井上　孝
	第 15 回	プロバイオティクス科学的根拠（論文）1（ゼミ）	井上　孝
	第 16 回	プロバイオティクス科学的根拠（論文）2（ゼミ）	井上　孝
	第 17 回	プロバイオティクス科学的根拠（論文）3（ゼミ）	井上　孝
	第 18 回	プロバイオティクス科学的根拠（論文）4（ゼミ）	井上　孝
	第 19 回	プレバイオティクス科学的根拠（論文）1（ゼミ）	井上　孝
	第 20 回	プレバイオティクス科学的根拠（論文）2（ゼミ）	井上　孝
	第 21 回	プレバイオティクス科学的根拠（論文）3（ゼミ）	井上　孝
	第 22 回	プレバイオティクス科学的根拠（論文）4（ゼミ）	井上　孝
	第 23 回	健康食品と食品衛生１（ゼミ）	井上　孝
	第 24 回	健康食品と食品衛生２（ゼミ）	井上　孝

評価方法 評価基準	授業参加態度、プレゼンテーション、レポートなどを合わせて総合的に評価する(100%)。		
教科書	なし	参考書等	なし
学生への メッセージ	プロバイオティクスの保健効果は現在の健康志向の課題の中心の一つとなっている。健康食品を考える上でも重要であり、しっかりした学習をするよう望みます。		